

印旛沼連携プログラム(アダプト)

に基づくNPO美しい田園21との連

携\*現在は水土里の路ウォーキングで連携

平成10年代後半、佐倉市内で活動する  
NPO法人印旛野菜いかだの会と印旛沼土  
地改良区佐倉西部支区とが協働してポン  
プ場取水口を取り囲むホテイアオイの防除  
をはじめの一步として、令和20年代中期に  
は、100名を超える戦士により外来生物の  
防除活動を行うまでになりました。人力に  
よる防除ゆえ、面積・量などを見て、その効  
果を疑問視する方もいらっしゃいますが、  
もっと大きな効果を得ていると思い、活動  
を続けています。☆お誘いは縁故で！

農村におけるソーシャル・キャピタル西調南部干拓低地排水路

知るに始まり、困った状況を共有！

協働の時は自然と戯れ、そして策を授かる！

「農村協働」

130人の戦士



## 平成28年、主戦場(低地排水路⇒一級河川)が変わっても農村協働スピリット変わらず

平成27年、印旛沼流域水循環健全化会議の生態系WGでは、排水機場のリスク軽減に向けたナガエツルノゲイトウの低密度管理を目的に、八千代市を流れる桑納川において、年数回行う継続防除活動を着手しました。この年、臼井の低地排水路での協働防除(最後は180名の戦士)をいったん終結し、「排水機場のリスク軽減」と、我々にもフィットする標題に流され、川での活動に舵を切りました\*この川、国営干拓事業で計画され水公団が施工！

舵切の決断は、新たな連携先「国際ボランティア学生協会」の存在が大きく、外来生物の防除のみならず、今後、農業・水土里ネットの活動にプラスになると考えたからです。私が知るところ、関東では印旛沼流域における外来生物防除、近畿圏では琵琶湖での活動に参加しているとのこと。琵琶湖での取り組みでは協議会会員にivusaの名が連ねられているようです。





21世紀土地改良区創造運動着手時から、印旛沼・印旛沼地域の農業を心配して連携・協働するNPOいんば(理事長高橋修)多面的機能活動組織、ivusaとの取り組み



8月3日～5日まで、桑納川下流部で活動



農家の応援



OMOTENASI





沼内防除チャレンジ  
R5.9.24

機械併用防除  
R5.10.21



底なし沼のレッテルを貼  
り、チャレンジしようとも  
思わなかった沼内の長柄  
防除も浮棧橋を使えば可  
能となった⇒次は沼へ



お  
疲  
れ  
さ  
ま  
で  
し  
た

